視　察　報　告　書

報告者氏名　乾紳一郎　㊞

1　会派名

日本共産党

2　期　間

平成２８年２月１０日（水）、１２日（金）

3　視察都市等及び視察項目

（１）柏　市　特別支援教育について

（２）野田市　特別支援教育について

（３）松戸市　特別支援教育について

4　所感等

特別支援教育について、近隣3市を視察しました。きっかけは、現在流山市が実施している特別支援教室（情緒学級）の父母から、市内に固定情緒学級が小学校2校しかなく、中学校にはないので、増やしてほしいとの要望が寄せられたことです。

柏市、野田市、松戸市の教育委員会に対して、以下の6項目について聞き取りました。

1、特別支援学級の現在までの設置条件（障がい内容ごとの学級数・児童数）、および通所学級や特別支援教室の状況
2、設置するための条件や設置に至る基本的な姿勢
3、教員の確保や専門性を高めるための研修などの取り組み（県教委等の取り組みと市独自の取り組み）
4、特別支援学級・通常学級等への就学指導における体制や就学決定までの経過
5、特別支援学級における予算の推移

６、特別な支援を必要とする児童生徒への支援員体制（人数、待遇、雇用条件、支援するための児童生徒の条件）

柏市の特別支援学級の状況では、特別支援学級設置校60校、未設置校2校、そのうち、自閉症、情緒障がい特別支援学校が平成27年度に小学校で5校、中学校で4校増加し、小学校33学級、中学校10学級になっています。一人でも要望があれば、空き教室があって担任する教師が確保できれば情緒学級を開設する姿勢で取り組んでいるとのことでした。

野田市では、教育委員会からの説明と、中学校での特別支援教室（知的障がい）と情緒学級をそれぞれ見学させていただきました。生徒の障害の状況に応じた担任、支援員などの対応は大変参考になりました。野田市の情緒学級の設置状況は小学校10校、中学校6校と年々増加しています。

松戸市の特別支援学級の状況では、情緒学級の設置数は小学校で固定が11校に通級が6校、中学校で固定が2校、通級3校です。松戸市特別支援教育中長期推進計画では、発達障害・疑いのある児童生徒数が大きく増えており、支援員の配置を30人増やす計画となっています。

今回、特別支援教育の情緒学級を中心に各市を視察しましたが、いずれも、発達障害を持つ児童・生徒の増加に対応して各教育委員会が情緒学級を年々増加してきたことが確認されました。

流山市の教育現場では、発達障害をもつ児童生徒を通常学級で受け入れる方針であると考えられます。そのためのサポート教員の配置や支援確保に努力してきていると思っていますが、現に、情緒学級で学んでいる児童や父母の願い、「もっと近くの学校に情緒学級を設置してほしい」「中学校でも情緒学級を設置してほしい」との声に応える姿勢が弱かったのではないかと考えています。

３月議会での会派としての議会質問にも、視察における調査の成果を反映させることができました。４月から、南部中学校と八木北小学校で新たに情緒学級を設置、知的の特別支援学級も２校設置されることになり、要望を寄せていただいた保護者も大変喜んでいます。教育委員会の答弁でも、情緒学級の設置に積極的に取り組んでいく姿勢が表れていました。今後の、取り組みに期待したいと思います。

なお、今回の会派視察には、徳増きよ子、植田和子市議も同行しました。政務活動費は使用していません。